

航空教室

from 豊山小学校

子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が今、求められています。

そこで、キャリア教育の一環として、十月二十二日(水)、四年生を対象に航空教室を行いました。これは、今年度初めての取組です。フジドリームエアラインズ(FDA)から機長さん、フライトアテンダントさん、部長さんたちにお越しいただきました。

始めに機長さんから、これまでの経歴や豊山町在住であることをお聞きしました。海外での多くの飛行経験に子どもたちも驚いていました。

次に、営業の方から、航空会社には、パイロットやフライトアテンダントだけでなく、飛行機を整備したり、空港のカウンターで受付をしたりする人など、様々な仕事があることを教えていただきました。また、飛行機の長さや重さなどについてもクイズ形式で知ることができました。県営名古屋空港からは、全国七か所に就航していることが分かりました。

フライトアテンダントさんからは、保安要員として機内を安全で快適にすることが一番の仕事であり、飛行機から見える景色はすばらしいものであるというお話がありました。搭乗するとき以外

には訓練を行っていて、専門知識の向上に努めていることなどを教えていただきました。豊山町出身ということ、子どもたちも、非常に親近感を持ちました。

それぞれの方のお話から、責任や自分の仕事に対する誇りを感じることで、きました。一時間の短い時間でしたが、子どもたちは、働くことの大切さと、職業への憧れを感じる事ができたと思います。「飛行機はなぜ速く飛べるんですか」「酸素マスクが降りるのはどんなときですか」「どの国の言葉を使えますか」など、多くの質問が子どもたちから出ました。その都度丁寧にお答えいただき、子どもたちも納得の様子でした。

将来への夢や希望がもてるように、航空宇宙産業に力を入れる豊山町ならではの地の利を生かしつつ、今後もキャリア教育の充実を図っていきます。



第百七十三話

村祭り

昔は小学唱歌などで、『村の鎮守の神様の今日はめでたいお祭り日』と歌われていたように、秋に行われる鎮守様のお祭りは農村における年中行事の中でも最大のイベントでした。

豊場の近郷近在でも十月の初旬から中旬にかけて各地で氏神様のお祭りが日替わりで行われました。

「今日は近くでお祭りだから見に行こう」、「今日は親戚のお祭りに呼ばれている」といったように、この時期になると子ども達にとっては、毎日が期待に胸を膨らませる実に楽しい時期でした。

豊場の氏神様である八所神社の秋の祭りは十月九日と定められており、当日はどこの家でも朝早くからご馳走の準備をし、大勢の親類縁者をお呼んで秋祭りを楽しんだものです。

当時は八所神社の大鳥居が名栗町字鳥居前、岡島製菓店前の道路にそびえ立っており、八所神社の入り口からこの大鳥居に至る道の両側には露天の店

がたくさん並び、祭りの雰囲気を感じて盛り上げました。現在では実施されなくなりましたが、当



時は献馬といって裸馬を馬道具で飾り立て、お宮に奉納したものです。

午後の人手の一番多い時期にこの馬達の飾りを全部取り払い、町内のしるしが付いた手ぬぐいを取り付けた竹ざお一本だけを鞍の上に残して大鳥居のところから裸馬で走らせることが恒例となっていました。

大鳥居のところでは、三回ぐるぐるとまわされ、お尻を思い切り叩かれ、手綱を外された馬は恐怖心からどこかへ早く逃げようと思いい切り走り出します。道路の両側で見物している大勢の観衆がワーワー言っってはやし立てます。その様子は実に壮観で祭りの盛り上がりは最高潮でした。

今は昔の物語です。(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)

